

平成28年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 菊陵 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 数学)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.3	74	5.8	64	21.2	59	6.1	41
全国	25.0	76	6.0	67	22.4	62	6.6	44

(2) 本校の学力調査結果の分析

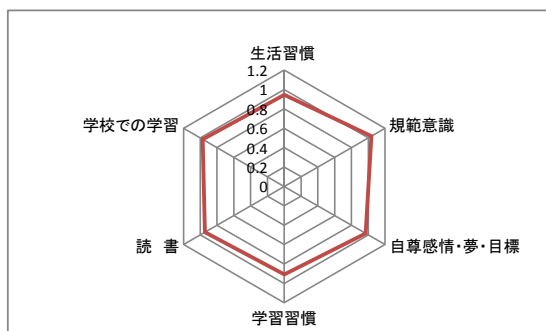
国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には、全国平均正答率をやや下回っていたが、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項は全国とほぼ同程度である。 ・書くことに関する問題に課題があり、話を聞いて要点をまとめる練習をしたり、書くことを習慣化する必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	文脈に即して漢字を正しく書く・読む問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う問題の正答率が大変低かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書く問題の無解答率が全国の2倍以上あった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く問題の正答率は全国とほぼ同程度であった。	
	努力が必要な問題	全国的な傾向と同じく、課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考え、それをまとめて書く問題の正答率がかなり低かった。	

数学A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っているが、昨年度より上昇していた。領域別では、数と式に関する問題は全国平均とほぼ同程度だったが、関数や資料の整理に関する問題を苦手とする生徒が多く、今後の課題である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	正・負の加法の計算や一次式の加法・減法の計算の正答率は、全国平均を少し上回っていた。	
	努力が必要な問題	比例・反比例・一次関数の特徴や表との関連性、変化の割合に関する問題の正答率が低く、無解答率が高い。	

数学B	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率を下回り、特に関数の苦手意識が高いことが伺われる。 ・関数、文字式、図形などの問題に関する記述式の解答は、無解答率がかなり高く、思考力・表現力を養うことが今後の課題である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、処理したり、数量の関係を数学的に表現する問題の正答率は、他の問題に比べ全国平均に近づいた。	
	努力が必要な問題	筋道を立てて考え証明したり、付加された条件の下で、新たな事柄を見いだし証明したりする問題の正答率が低く、無解答率は約半数にのぼる。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・朝食を毎日食べている生徒の割合は全国と比べて低い。 ・自尊感情が全国に比べて低いので、生徒の頑張りや成果をほめてやり、また道徳の授業を総合的な学習の時間や学校・学年行事との関連を持たせて取り扱いたいと考えている。 ・平日の家庭学習の時間が1時間未満の生徒の割合が76.1%と全国の倍以上高く、家庭学習時間の絶対量の不足が課題である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・授業の中で学習の「めあて」をきちんと提示し、振り返りを行い、「まとめ」を生徒自身のことばで書かせる。
- ・朝自習を教科ごとに1週間、1ヶ月と同教科継続して行い、朝自習テストを実施し、基礎学力の定着を図る。
- ・読書週間を設け、本に親しむ取り組みを行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・学期の最初の学活で家庭学習のやり方を「家庭学習チャレンジブック」を使って指導し、定期考査前の学習計画表で家庭学習の取り組み方を確認する。確認後、生徒への個別指導に生かす。
- ・毎日1日1ページノートを行い、学年主任や副担任がチェックを行うことで、家庭学習習慣を身につけさせる。